

令和6年度名古屋市公営企業決算審査意見（概要）

1 審査の結果

審査に付された決算書類等は、いずれも法令等に準拠して作成され、その計数は正確であり、経営成績及び財政状態を適正に表示しているものと認められた。また、予算の執行状況はおおむね適正であると認められた。

以下の総括意見については、特に配慮されたい。

2 決算審査に係る総括意見

(1) 上下水道局に対する意見（意見書66ページ）

水道事業では令和3年度以来の黒字、下水道事業では2期連続の赤字を計上した。

本市は今後、本格的な人口減少局面を迎えるとされており、将来的には水需要の減少傾向はさらに強まることが見込まれている。

一方、施設の老朽化が進行していることに加え、近年は豪雨や地震への備えも求められており、引き続き長期的な視点に立ち、事業費の抑制や平準化を図りつつ、改築・更新と災害に備えた施設の機能向上に取り組む必要がある。

上下水道局においては、施設の老朽化などに起因した事故によって、市民生活や社会経済活動に重大な被害を及ぼすことのないよう、名古屋市上下水道経営プラン2028（改定版）に掲げた事業の着実な推進に努められたい。また、不断の経営努力に取り組みながら、強靱かつ安全で持続可能な上下水道を目指し、安定的な経営基盤の構築に努められたい。

(2) 交通局に対する意見（意見書68ページ）

自動車運送事業では令和元年度以来、高速度鉄道事業では3期連続の黒字を計上した。

乗車人員全体としては新型コロナウイルス感染症の影響前である令和元年度の水準に近づきつつあるものの、敬老パスを利用した乗車人員は依然として低い水準に留まっている。

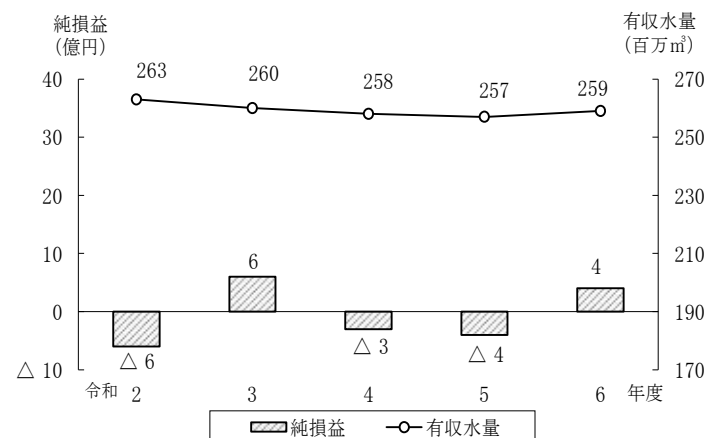
一方、施設の老朽化などが進んでいることから、計画的な維持管理や施設のリニューアルを進めていく必要があるほか、安全性の向上に係る取組も求められている。

今後も市民生活や都市活動を支える交通サービスを提供し続けていく上では、自動車運送事業と高速度鉄道事業が一体となって事業を運営していくことが重要であるとともに、両事業における不断の経営努力が必要となる。

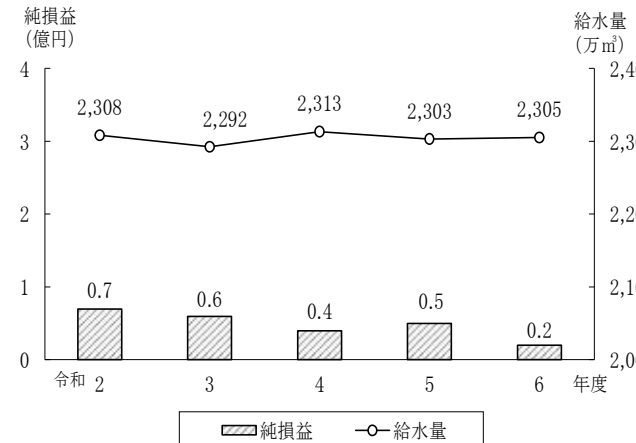
交通局においては、事業環境の変化に適応し、安全・安心、快適・便利な交通サービスを提供し続けることができるよう、財源確保に向けて国や愛知県に対して引き続き要望を行うとともに、経常的な経費の縮減やデジタル技術の活用等による事業運営の省力化・効率化に一層取り組むなど、名古屋市営交通事業経営計画2028に掲げた事業の着実な推進に努められたい。

決算状況

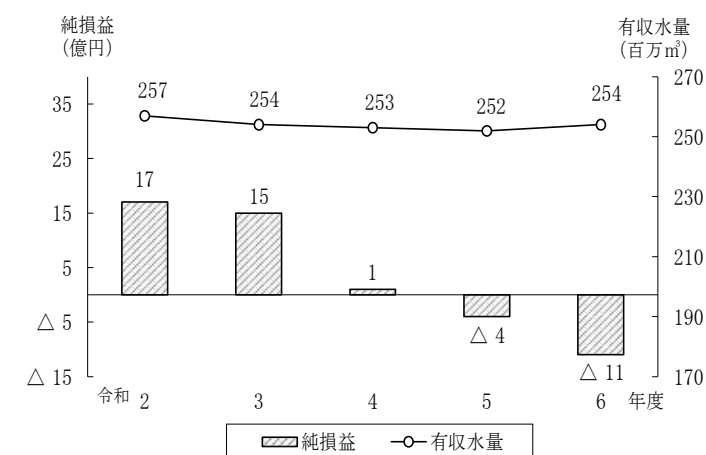
◎水道事業（純損益及び有収水量の推移）



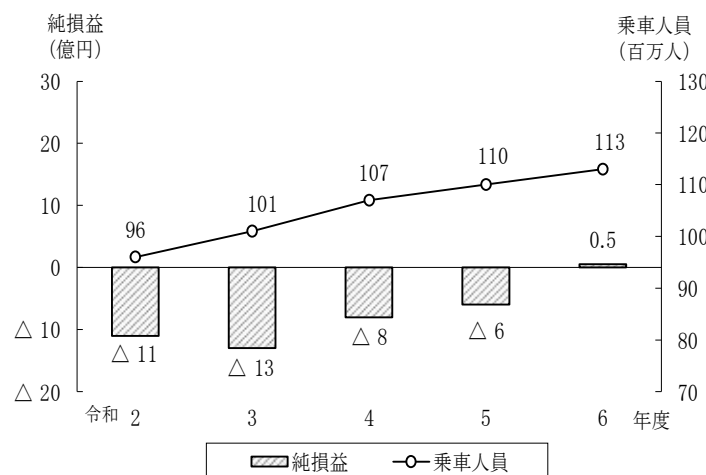
◎工業用水道事業（純損益及び給水量の推移）



◎下水道事業（純損益及び有収水量の推移）



◎自動車運送事業（純損益及び乗車人員の推移）



◎高速度鉄道事業（純損益及び乗車人員の推移）

